

相互提案型協働事業実施報告書

平成28年 4月28日

(宛先) 座間市長

団体 住 所 座間市緑ヶ丘五丁目6番28号

名 称 特定非営利活動法人 きづき

代表者氏名 岩田 文子



市 担 当 課 障がい福祉課

所 属 長 課長 中島 千加子



健康づくり課

課長 篠原 真



次のとおり報告します。

1 事業名	市民こころのバリアフリー (心の健康問題普及啓発) 及びハート・コミュニティ事業
2 事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input type="checkbox"/> 市提案協働事業
3 選考年度	平成26年度選考 (平成27年度実施)
4 報告期間	平成27年4月1日 から 平成28年3月31日 まで
5 事業費	550,000円 (内座間市支出分 500,000円)
6 事業概要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	<p>平成16年3月厚生労働省から出された「こころのバリアフリー宣言」～精神疾患を正しく理解し、新しい一歩を踏み出すための指針～を基に事業。</p> <p>平成23年7月に、5大疾病に加えられた精神疾患の正しい知識や情報を地域住民に提供し、心身の健康問題の普及啓発講座を開催。 「宣言」にある「共生の社会を目指す」ために、心の健康問題を皆で考え、知恵を出し、理解を深め合う交流の場を創出してコミュニティのネットワーク構築。 心身の健康問題を地域社会で共有するために、事業の講座情報等を紙面化して地域社会に情報誌の発行。</p> <p>上記を年2クール行い、「宣言」が地域に根付いて理解が深まることを期待した。</p>
7 添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業記録写真 <input checked="" type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input checked="" type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他 ()

相互提案型協働事業評価シート

事業名	市民こころのバリアフリー（心の健康問題普及啓発）及びハート・コミュニティ事業
-----	----------------------------------------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	所期の目的は、十分達成できましたか。	
	講座等を前・後期の2クールを計画通りに行った。事業目的である、こころの健康問題の情報発信、共有、交流が広くなされた。	障がい福祉課 ・所期の目的は、十分達成できた。 健康づくり課 ・目的は、十分達成できた。
事業成果・効果	事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。	
	1クール3回の講座と情報誌（回覧）を発行し、精神疾患の正しい知識や情報を、地域住民に広く周知することができた。 参加のべ数は280人を超え、アンケートで毎回、満足度結果が84%以上の満足となり成果はあったといえる。	障がい福祉課 ・精神疾患や精神障がいに対する理解を深める事業として成果はあったが、その効果については現段階での判断は難しい。 健康づくり課 ・事業の成果と・効果についてではありますが、事業の成果はある程度あったと思いますが、効果については、今ここで判断するのは難しい。少し長い目で見てみないと。

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	<p>十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。</p> <p>事業展開において、当初は市民協働課の参加で協議や調整等を行ったが、後期では担当課のみとの協議や調整で終わることができた。事業の進行と共に毎回の反省会を行い、共通認識や確認ができた。</p>	<p>障がい福祉課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初の役割分担どおりに計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮できた。 <p>健康づくり課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や課題に対する共通な認識は持てた。

事業の進行管理	<p>進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。</p> <p>開催前は場所の確保状況、参加申込状況等の情報交換や共通認識、確認を電話連絡等で綿密に行えた。また、開催後は反省会を行って次回開催をスムーズにできた。</p>	<p>障がい福祉課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定どおりに計画執行できた。 <p>健康づくり課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業ごとに反省会等を行い、進行管理を行ってきた。
対等な関係	<p>協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。</p> <p>協働の特性を活かしながら、それぞれが対等な立場と共に、理解を示す方向で協議することができた。</p>	<p>障がい福祉課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対等な関係が協議等保持することができた。 <p>健康づくり課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市側の認識では対等に協議ができた。

相互理解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	当団体の利用者参加によって、障がい者理解の一環となった。市の立場を活かしながら、それぞれが理解を深める場となり、対等な関係が得られた。	<p>障がい福祉課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けた。 <p>健康づくり課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・程度問題はあるがお互い補える関係は築けた。

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果たすことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座等の計画立案・実施 前・後期共に計画的にできた。 ・講師手配 講師のご協力でスムーズだった。 ・資料作成 利用者の作業として行えた。 ・情報誌印刷手配 インターネットを利用した。 	<p>(市の役割)</p> <p>障がい福祉課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙への記事掲載、資料の印刷、申込受付、当日の手伝い等 <p>健康づくり課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場手続きチラシ、ポスター配布、会報の回覧手続き

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適正さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	<p>団体として可能な役割、行政ができる部分を明確にしたことで適正だったといえる。</p>	<p>障がい福祉課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正であった。 <p>健康づくり課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正であった。
実施結果	設定した役割分担を果たすことができましたか。	

	それぞれの役割を確実にこなす事で、事業をスムーズに進めた。	障がい福祉課 ・当初取り決めた役割分担どおりに計画段階から完了まで実施することができた。 健康づくり課 ・できた。
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。	
	団体単独で事業するより、周知や場所の確保が確実となった。周知においては、「ざま広報」を見て参加したというアンケート結果が得られたため、効果があったことが分かる。また、場所の確保においても、広い場所等の確保が早くから決定し、多くの参加が得られる結果となった。	障がい福祉課 ・事業を実施するに、まず予算が必要であり予算確保、更に実施場所の確保や講座のPR手段、申込受付等、認定NPO法人だけの事業実施では厳しいと思われた点に単独で実施する以上の成果を上げることができたと思われた。 健康づくり課 ・単独で行うより、成果はでたのではないか。

4 今後の具体的な展開

事業の波及効果	今後、実施事業をどのような形で展開していくことが望ましいと思いますか。	
	(団体の考え) 「こころの健康問題」は社会現況を考慮すると減る傾向とは考えにくい。座間市においても同様傾向と思われるので、今回1年目で「動機づけ」の期間とし、2年目は「地域広がり期間」、3年目で「企業等連携期間」として、長期的に「こころの健康問題」に取り組むことが望ましいといえる。	(市の考え) 障がい福祉課 ・1年目の事業内容からさらに広く市民の理解を得られるような事業展開を期待したい。 健康づくり課 ・協働事業でやったノウハウを活用し、また、協働事業を行った経験をPRしながら、様々な形で事業展開をしてほしい。